≪報告書≫

協働のまちづくりワークショップ

協働のきほんのき！を学ぶ

日 時 ： 平成29年7月25日（火）

午後1時30分～４時30分

場 所 ： 西東京市防災センター６階　講座室２

主 催 ： 西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ

目　次

１．本事業の目的と概要 1

1.1　本事業の目的 1

1.2　開催概要 1

1.3　プログラム 1

1.4　参加者 1

２．講　演 2

「協働の基本のき！を学ぶ」

３．ワークショップ 2

3.1　ワークショップのすすめ方 2

3.2　ワークショップの問い 2

3.3　グループごとの意見 3

3.4　ワークシート 5

3.5　ワークショップ後の講演 6

４．アンケート結果（抜粋） 6

１．本事業の目的と概要

1.1　本事業の目的

平成 27 年度から「協働のまちづくりワークショップ」として、従来の「啓発の場」や「交流の場」から一歩進められる「協働のきっかけの場」になるよう企画、開催している。

多者（マルチステークホルダー）協働の推進・基盤づくりに向けて西東京市の市民活動団体、行政、企業等の参加者がともに学び合い、協働のきっかけに結びつけることを目的とする。

行政職員は、研修として参加し、市民活動団体や企業等の参加者とともに「協働」について学び、互いの違いを理解し合い、協働の可能性に気付く機会とする。

今年度は、多者協働するために必要な姿勢について学び、参加者それぞれが協働という手法を用いることによる地域社会を豊かにするための可能性を知り、具体的な推進目標を持てることとする。

1.2　開催概要

日　時　平成29年７月25日（火）13時30分～16時30分
場　所　防災センター　6階　講座室
対　象　西東京市の市民活動団体、西東京市職員（職員研修）
定　員　60名募集（市民30人　職員30人）

1.3　プログラム

開会・主催者挨拶（午後１時30分～）
　西東京市協働コミュニティ課　課長　山田　豊
　西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ センター長 内田雅俊
第1部
　講演　（午後１時40分～2時10分）
　　「協働のきほんのき！を学ぶ」
　講師　ＮＰＯ法人れんげ舎 代表理事　長田（おさだ）　英史（てるちか）氏
第２部
　ワークショップ（午後2時10分～3時20分）
　　説明とワークショップ
　　コーディネーター：ＮＰＯ法人れんげ舎　代表理事　長田　英史氏

　休憩（午後3時20分）

　発表（午後3時30分～）
　講評（午後4時～）

閉会（午後4時30分）

1.4　参加者

① 市民　30人（NPO　16人、企業5人、地域コミュニティ9人）
② 職員　28人（24課　　28人（講演のみ参加1人含む））
③ 見学者　3人（市外）

２．講　演

「協働のきほんのき！」を学ぶ

西東京市の「市民活動団体との協働の基本方針」に沿って説明
西東京市における“協働の定義“とは
協働の3つのポイント
①相互に対等な関係
②互いの特性や立場を十分理解し、認め合いながら
③共通する課題の解決や目標の実現に向けて協力すること

NPO・市民活動団体と、行政の違い

市	市民活動団体
平等性・公平性・継続性・安定性	自発性、先駆性、多様性、専門性、機敏性、地域性、個別性　など
トップダウン型	フラット型
政策・計画を元に業務で人が繋がり命令系統がある	地縁や信頼で人がつながり合議制で動く

組織どうしの関係の整理、組織の在り方をお互いに理解することが大切。

３．ワークショップ

3.1　ワークショップの進め方

・1グループは、市民と市職員が混在する4，5人で構成し、全12グループ。
・1グループにタイムキーパーと発表者を決める。
・グループごとに３つのテーマについて話し合いを進める。
・1テーマにつき20分。発言は1人3分で話せない人がないようにし、残りの時間でテーマについて深める意見交換を行う。
・最後に1グループ2分で、話し合いの内容を発表し、全員で共有する。

3.2　ワークショップの問い

①協働についての話を聞きましたが、改めて「協働したい」と思いますか？
（思う／思わない/どちらとも言えない）＊理由もお聞かせください。
②協働する場合、よりよい協働のために、協働の相手先に求めるものは何ですか？
③協働する場合、よりよい協働のために、自分たちができることは何ですか

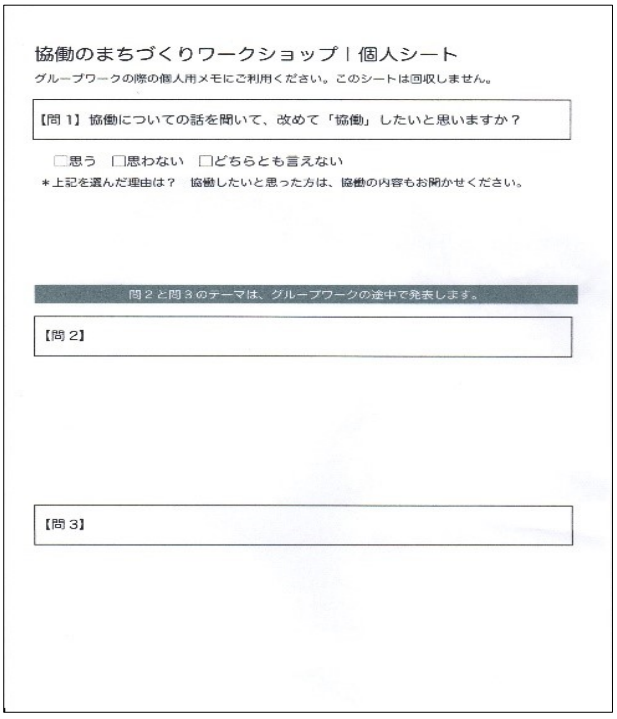
3.3　グループごとの意見

	問１　協働したいですか	問２　協働の相手に求めるものは	問３　自分たちができることは
1	協働したい⇒別の組織に属している人の考えを聞くことで、別の視点で物事を考えることができる。 どちらとも言えない⇒自分たちで物事を進めていくよりも時間・労力能力や調整も必要となるので、どちらとも言えない。	難しいけど、お互いに頭を悩ませて一緒に考えていこうという意識・姿勢が必要。	
2	皆、協働したい。	相手の話を聞く事、自分達のもっている目標・理念を理解して信頼関係をつくっていく。 自分達のブランドのイメージをつくっていくこと。 お互いに話を聞く姿勢をもつことが大事。	何のために協働を行っているのか意識をして目標や目的を理解する。 市全体の動きを把握する。 自分達の課内のやっていることを発信していく。
3	協働したい⇒いろいろな視点から目標に向かっていくことができる。いろいろな人が関わることで今あるものをよりよりよくできる。 どちらともいえない⇒協働がどういうものかわからないので。 ・協働していたけどうまくいかなかった。課題がある。	同じ平等のはずなのに、どちらかが上目線になると平等でないと感じるため平等性。 立場が違うのでそれぞれボランティア精神を理解してやっていくことが大切。	市民団体は、メンバーが変わっても安定して運営を行うことで信頼獲得していく。 行政は、繋がっていく場を提供し積極的に働きかけていくこと。
4	協働したい　３人 どちらとも言えない　１人 協働したほうがいい　１人	行政側としては、意思決定のフローチャートを教えてほしい。団体の中での連絡をとってほしい。真の目的・共通の課題をきちんと確認してほしい。 団体ごとの内情を述べる場がないので、会議で決める形式をとってほしい。ぶつかってもきちんと話し合いをしてほしい。なぜ意見が通らないのかきちんと説明してほしい。	意思疎通をしっかりする。 話し合いをして記録を残す。 行政側の説明をきちんとする。 目的課題をはっきりする。 市民ニーズと自分たちのやりたいことを考えてやっていく。 相互理解のためのルールやツールがあってもいいのでは。

5	協働したい２人⇒行政とで円滑にやっていけることがたくさんある。 どちらとも言えない２人⇒見えなかったことがみんなに見えてくることもある。 協働したくない⇒市は法律・条令等のしがらみがでてくる。一部だが市民と行政は相容れない人もいる。	フラットな関係で話ができれば。相手の意見を尊重して、出来ない事をどうやったらできるか一緒に考えあえる相手が必要。	自分が何ができるのか、把握して積極的に議論できることが必要。
6	協働はしたい⇒、するべきである。人材や資金の調達が考えられる。 （協働が上手くいった例を聞いた。協働すべき）	協働に不満がある。市民と行政の間で情報に対して非対称性がある。 行政のルール、縦割り、管轄への理解が足りない。 市民に対する説明が不足しているため、団体の計画などが不透明になっている。解消するためには、意見の交換の場が必要。交換の場を設けようとする姿勢が見受けられない。（協コミが主体となってやってほしい）	市民と行政の妥協点を考え課題解決の目標にすればいい。
7	協働したほうがいい。（全員）⇒1 団体だけで知らないことが多いので、色々なことと繋がったほうがいい。専門性のある外部と行うことで、広がりが得られる。団体どうしの立場を理解することが必要。理解不足による齟齬。	行政側は、こちらの事情も理解してほしい。情報漏洩を守ることもわかるが、建設的な話し合いには出せる情報を出さないと協働は進まない。 お互いの強み・できることを出し合いながら話をする。 話の姿勢として、腕組みをされると話し合いが弾まない。	信頼関係を築くことが大事。 できなかったときに繋げ、できることを対応する。 話を聞く姿勢をもつ、できることを考えたら表現する。 途中でもプロセスを共有する。 人間性とあたたかみのある人格として対応をする。
8	協働したい⇒市民の意見を吸い上げられたり、コミュニケーションがはかられる。 迷う⇒理解が足りなくて、大変。 ・協働の概念を身近に捉えられるといい。まちを良くしていくという気持ちを共有しながら、お互いの良さを活かして模索しながらやりたい。	お互いの理解を深めていく。協働するにもお互いの意見を出し合ってすり合わせていく。 お互いを理解する。話しを聴く姿勢。話を聞きに行く。思いや目標を具体的に共有する。アンテナを張り、情報共有したり、ペアで対応したり、相手にとって迷惑にならないように、相手が理解しやすいように自分達が動いていく。	

9	協働したい⇒具体的取組みなく、交流、話し合う機会が不足しているので必要。	お互いができること、できないことを相互に理解していくことが必要。 お互いの違いを話し合い、腹を割って協力しあう。 市を良くしていくという同じ目標意識をもってともに進めていく必要がある。	行政と市民の方と話をする機会が少ない。機会をつくってより身近なことからコツコツとやる必要がある。
10	協働について意見が分かれた。	市民団体と行政は立場が違うので、相互理解を踏まえた上で何ができるのか探っていく必要がある。	柔軟に対応しフットワークを良くする。先を見据えた対応をする。 相互理解に向けて思いやりのある受け答えをしていきたい。
11	協働したいという意見多数⇒団体だけでは行えないことがたくさんありそう。	同じ目的、聞く姿勢、理解する姿勢、温度差がないこと。 話している話題の時間軸が同じであること。 協働を結婚という言葉に置き換えるとわかりやすい。	市の側は、市民側で協働に参加してみては。 団体の側で考えると、得意分野があるなかで、情報提供をしたり、情報共有をしていくといい。
12	協働したい３人 どちらとも言えない１人	立場が異なるが、目的をもって協働してほしい。異文化コミュニケーション。立場が違う中でも、いろいろ言い合える場面にしていけばいい。	意見が出てこない悩みがある。自分たちから情報提供してあげる、手伝いをすることにより意見が促進されるといい。 協働することの意味は、ある意味弱点を補える関係ができるといいと思う。いろんな意見が出ることはいいことだと思う。

3.4　ワークシート



協働のまちづくりワークショップ｜個人シート

グループワークの際の個人用メモにご利用ください。このシートは回収しません。

【問 1】協働についての話を聞いて、改めて「協働」したいと思いますか？

□思う　□思わない　□どちらとも言えない

＊上記を選んだ理由は？　協働したいと思った方は、協働の内容もお聞かせください。

問２と問３のテーマは、グループワークの途中で発表します。

【問 2】

【問 3】

3-5　ワークショップ後の講演

２種類の地域課題

認知された地域課題

課題としてエントリーされているもの
行政の縦割りの強みで対応

潜在的な地域課題

市民活動の現場で知らないうちに発見されている独特の観点
市民活動団体が対応しているケースが多い。

相互に足りないもの

行政　　組織の継続があいまい（課のレベル）
市民団体活動　ビジネススキルに乏しく、組織基盤が弱い。

相互に大切なもの

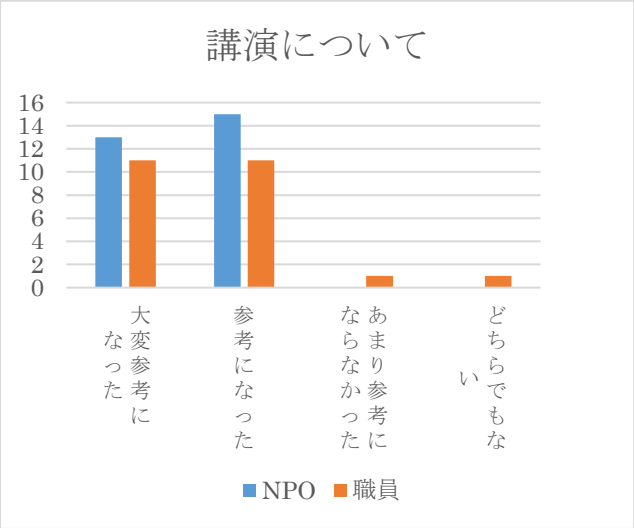
自分達のミッションやアイデンティティーを大切にする。相手のものも侵さない。
団体の独自性の活用
協働するからと魂を売ってはだめ。
組織どうしの基盤の整理が必要

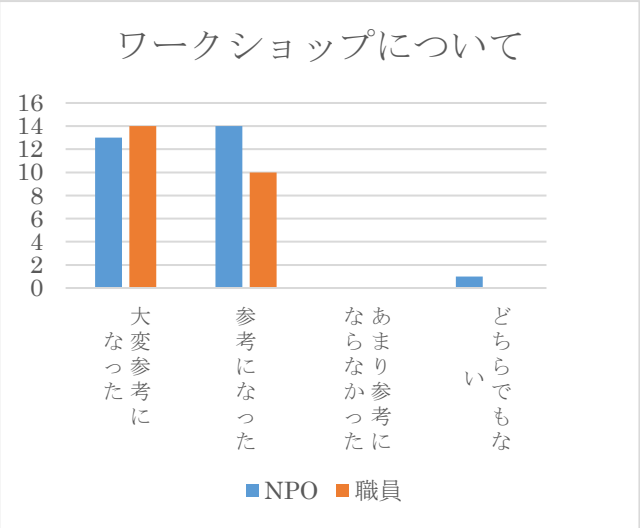
４．　アンケート結果

総回答者数　52人
（自由記述　抜粋）

講演について

・意思決定の流れが違うと、協働の際に立場が互いに理解できないので、平等な立場での信頼関係を構築するむずかしさを感じました。しかし組織のタイプを知ることで互いの立場を知ろうとするきっかけになると思いました。
・団体の方と協働する際、何が原因でやりにくさを感じていたのかが明確になりました。
・基本知識がなかったので、大変ためになった。
・行政と市民活動団体の違いが良くわかった。
・協働とは何なのか、協働していく上でどのような課題があるか知ることができた。
・長田さんのお話がとても参考になった。西東京市の協働の考え方を改めて確認できた。
・西東京市が協働を推進するにあたって方針としているものや、実際に協働されてる市民団体さんの特徴など学ぶことが多くありました。
・協働についてわからないところがかなり明確になった。
・西東京市における協働の定義を初めて知った。NPO市民活動団体と行政のかかわりの前提を勉強した。
・組織の意思決定の違いなど聞いてナルホドと思うことばかりでした。
・共同ではなく協働なんだなぁと。しみじみ。
・わかっているようでハッキリしていない、あいまいなままで過ごしてきているような事を整理して伝えていただいた。
・協働についてぼやけたイメージがありましたが講演を聞くとイメージを深める事ができた。





ワークショップについて

・市の中の意見では協働ではなく共感でおわってしまうことが多い。本日、こうしてほしいをダイレクトに市の人から意見をきけたことは大変参考になると思いました。
・いろんな団体のご意見がきけてよかった。
・実際にやりとりをするのではない、市内団体の方の意見をきくことができ、とても有益でした。
・普段団体の方と話す機会がないので、活動内容や理念を知ることができ、また活動中の悩みなども聞くことができたことで、身近に感じることができました。
・市民からの意見、こんなことを思っているのだなと知ることができた。
・様々な立場の方と話しが出来、有意義だった。
・まず、自分が協働について考えることがあまり無かったと実感し、言語化することが難しいと思いました。しかし、様々な立場の方の意見を聞いて、自分の意見が少しずつ見えてきました。
・立場によって違うことがよく出てきておもしろかったです。
・市の職員さんたちとこのようにフラットに話し合える場はとても良かったです。
・市の方からの考え方を知ることができて良かった。発言しながら、自分の考えを改めて考え、見直すことができた。
・市内で活動している方々との意見、情報を知る事ができた。
自分の考えている事が明確になった。